

		実施年月日(常勤職員数/非常勤職員数)	合計数			改善目標、工夫している点など
			2020年1月実施 職員数7名	224	65	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7			活動教室を分け、スペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	5	2		送迎の方向がバラバラすぎて別便を出す時は手薄と覚えることもある。利用者に対しての人員は十分確保しているが、面談・送迎時に不足するので調整している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	5		駐車場の砂利が怖い時がある。小さな段差、間口の狭さがある。ハード面の問題をソフト面でカバーする努力をしている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	1		週1回の会議を実施。決定事項は必ず評価時期を設定し、見直しを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5	2		アンケートが多すぎても回収率が下がってしまうので適切な頻度を模索していく。実施、回収できているが意見が少ない為、日々の連絡帳・面談で意見を聞いている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	4	3		頻繁に行政に意見を聞きつつ業務を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	1		生徒数が増えてきて、研修の予定を入れる事も難しくなってきたと感じている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7			アセスメントの頻度は高い。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	5	1	新規利用者に対し実態把握シートを使用。個別に対応せざるを得ない事案が多く、標準化が難しい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7			活動担当を設定している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7			一定の固定化されたプログラムは必要だと思っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	1		休日等のイベント表を作成し、課題をもってイベント企画をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	5	2		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	3		朝礼時に送迎・スケジュール確認を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	4		日々全員の振り返りは困難だが、定期的カンファレンスの機会を設けている。必要に応じて終業前にカンファレンスを実施している。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7			連絡帳および指導日誌を必ず記載している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7			半年に一度は面談およびモニタリングを実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	7			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7			各学校に窓口を設け、FAXで送迎時間を確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	7			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	3	3	対象年齢ではない。 中高生からの利用が多く就学前までさかのぼることは少ない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5		2	卒業後の進路決定に際し実習の振り返り等に参加している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6		1	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		6	他所の子どもとの交流は少なく、機会を作れるなら作りたい。現状、外部の大人との交流は積極的に行えていると思う。 特に必要性を感じていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	2		5	相談支援を始めたことにより、自室支援協議会等に参加する機会が増え、県や市の動向をタイムリーに知ることができるようになった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7			面談が多い、と保護者に言われるほど小まめに面談が出来ていると思う。 必要に応じて面談を実施している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	7			定期的な面談にて相談・支援を行っている。 必要に応じて行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5		2	事業所見学、契約時に充分時間をかけて行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			1	6 必要性がない。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7			基本的には迅速な対応を行うが、苦情とクレームの境界が曖昧にならないようコントロールする必要性を感じる。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7			日々ブログを配信している。
	35	個人情報に十分注意しているか	6	1		
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	5	1	不特定の人間を招待するのはリスクがためあまり行わないが、虐待防止の理解がある人には参加してもらっている。招待はしていないが地域のイベントには参加している。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	3	4		保護者にまで周知されていないのか、HP確認できていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	1		年1回は必ず実施している。去年は消防士に指導してもらった。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7			日頃のカンファレンスにて話し合いを行っている。カメラを意識させるよう努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	4	1	拘束する事は前提としていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7			利用前に調査を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7			